

言語使用面から見た日源新詞の受容

一定着度調査を中心として—

張曉娜（鹿児島大学大学院生）

1. はじめに

“御宅族”（オタク）“达人”（達人）“萌”（萌え）等のように、1978年の中中国の「改革開放」政策が実施されて以来、中国語に取り入れられた日本語由来の外来語は「日源新詞」と呼ばれている。日源新詞は他の外来語と同様に、話者の社会的属性や語の性質等により、定着の度合いが異なる。本発表は、新語辞書、日源新詞に関する先行研究、および各種のメディアから収集した日源新詞について、質問紙調査の結果から、語彙の定着度と地域、年齢などの日源新詞使用者の社会的属性との関連をとらえ、日源新詞の受容状況を考察する。

発表者は、2015年にも日源新詞の受容に関する調査を行っているが（張、2018），本発表は2018年に行った2回目の調査に基づく。調査の方法は2015年の調査と同じだが、今回新たに収集した45語の日源新詞の定着の様子を、地域差、年齢差などとの関わりから確認し、受容されやすい/受容されにくい語の性質などをとらえる。さらに、第1回目の調査結果と比較し、二つの調査の異同の確認とその原因についても考察する。その結果から、日源新詞の社会内での受容の実態を把握する。

2. 調査概要

2.1 調査期間・場所および調査対象

本発表の調査は、2018年4月から5月にかけて、中国の規模の異なる3つの都市¹で14才以上の中国語母語話者計300人を対象に質問紙により実施した。回答者の抽出は「各都市100人ずつ、5つの年齢層それぞれ20人、男女同数」の層別抽出による。

2.2 調査語

予備調査²で274語の定着度を調べ、その結果を元に、高定着度の語（3～4）、中定着度の語（2～3）、そして低定着度の語（1～2）の3つに分けた。その上で、3グループからランダムに15語ずつ選び出した。

表1 調査語

高グループ	大賞 量贩 本命 福袋 美肌 熟女 卡哇伊 便当 打 call 卖点 中二病 弹幕 暴走
中グループ	爆买 工口 人间失格 亚撒西 花火大会 援助交际 都市传说 ORZ/失意体 前屈 手作 肉食女 抖 S 女子力 残念 BL
低グループ	计划通 kuso 乙男 泥鳅内阁 箱推 奥姆真理教 年功序列 孤族 色气 飞特 土下座 KY Wota 艺 干物女 玉子烧

¹ 3つの都市を選んだ理由は、都市の規模により外来語の受容に差があるかどうかを確認するためである。都市の選定は2014年に中国の国家国務院が発表した都市規模の分類基準をもとに、「超大都市」であるシャンハイ、「大都市」であるサイナンと「小都市」であるタンジョウを選んだ。

² 予備調査は発表者が新語辞書、日源新詞に関する先行研究、そして各種のメディアから集めた274語を調査語とし、2018年3月に20代の中国語母語話者計40人を対象に質問紙により実施した。

2.3 調査項目と分析手順

45語の調査語の定着度を確認するために、回答者たちに各語に対する回答を以下の4つから選ぶよう求めた。

- ①調査語を聞いたことがない（以下「未知」）
- ②調査語を聞いたことはあるが、意味は分からぬ（以下「認知」）
- ③調査語の意味は分かるが、自分は使わぬ（以下「理解」）
- ④調査語を使う（以下「使用」）

各語ごとに「使用（4点）」「理解（3点）」「認知（2点）」「未知（1点）」で点数化し、調査語ごと及び調査回答者ごとの平均得点を算出した。その数値をもとに、まず調査回答者の受容状況を属性別に見た。つぎに調査語ごとに各語の認知率（聞いたことがある割合）、理解率（意味が分かる割合）、使用率（使う割合）そして平均定着度を算出して各語の定着の具合を確認した。さらに、第1回目の調査結果との比較、両調査の相違点の確認と原因の分析を行い、調査語の日源新語の受容の実態を把握することを試みた。

3. 調査結果と考察

3.1 調査回答者ごとの分析

調査した45語の平均定着度は1.91であった。調査語全体では「未知」から「認知」という段階（ある程度認知されているが、知名度の低い語がまだ数多く存在し、これから定着に至るかどうかは不明）という段階にあると考えられる。次に調査回答者の受容状況を属性別に見るために統計分析を行った。結果は表2の通りである。

表2 平均定着度の統計分析の結果

地域	N	平均値	標準偏差	F	性別	N	平均値	標準偏差	t
シャンハイ	100	1.62	0.41	36.988	男性	150	1.95	0.56	1.280
サイナン	100	1.88	0.50		女性	150	1.87	0.56	
タンジョウ	100	2.23	0.58		年齢層	N	平均値	標準偏差	
学歴	N	平均値	標準偏差	F	10代	60	2.05	0.60	
中学校/以下	35	2.07	0.66	2.198	20代	60	2.18	0.53	
高校/高専	56	1.82	0.50		30代	60	2.08	0.63	19.659
大学/短大	180	1.89	0.56		40代	60	1.75	0.36	
大学院	29	2.04	0.46		50代/以上	60	1.49	0.28	

性別：n.s. 地域 年齢層：p < .001 学歴：p < .10

4つの属性のうち、地域と年齢属性が日源新語の受容に影響していた。地域に関しては、都市の規模が大きいほど、日源新語の平均定着度が高くなる傾向がみられた。年齢については、10代を除けば、20代をピークに年齢が増すにつれて平均定着度が下降する傾向にあった。つまり、居住する都市の規模が大きく、若い人の方がより日源新語を受容していると解釈できる。

さらに、どの要因が平均定着度に一番影響が強いのかを確かめるために、平均定着度を従属変数としてSPSSの一般化線形モデルによる回帰分析を行った。その結果、地域（p < .001）、年齢（p < .001）で、それぞれ有意であった。両属性のWaldカイ2乗値を比較してみると、地域（ $\chi^2=99.536$, df=2, p < .001）より、年齢（ $\chi^2=100.989$, df=4, p < .001）の影響がやや強いことがわかった。学歴は有意ではなかったが、性別（p < .10）には有意傾向が見られた。

3.2 調査語ごとの分析

調査語はその平均定着度から以下のように分類できる。

表 3 平均定着度による語彙の分布

平均定着度	定着程度	調査語
「3~4」 （「理解」～「使用」）	十分定着している	暴走 便当 弹幕
「2~3」 （「認知」～「理解」）	ある程度理解されていて、定着に向かっている	卖点 熟女 打 call 卡哇伊 量贩 本命 福袋 天然呆 爆买 美肌 援助交际 中二病 亚美蝶/雅蠍蝶 都市传说 大赏
「1~2」 （「未知」～「認知」）	知らない人が多く、これから定着していくかどかは不明	手作 抖 S 肉食女 残念 奥姆真理教 女子力 色气 干物女 现充 BL 花火大会 人间失格 玉子烧 孤族 ORZ/失意 体前屈 计划通 工口 亚撒西 年功序列 飞特 Kuso KY 乙男 土下座 箱推 Wota 艺

平均定着値が「3～4」の3語のうち，“暴走”（暴走）と“便当”（弁当）の2語は2000年以前に輸入され、すでに『現代汉语词典』（第7版）にも収録されている語である。もうひとつの“弹幕”（弾幕）はマスコミ等の影響で急速に普及してきた語である。「2～3」の語には，“量贩”（量販）“爆买”（爆買い）“打 call”（コール）など、マスコミや商業においての使用されているものが多い。これらは一時的な「流行りもの」の可能性もあり、定着に向かっていても十分安定していない状態にあると思われる。「1～2」の語には，“奥ム真理教”（オウム真理教）“年工序列”（年功序列）“土下座”（土下座）のような日本の文化や社会現象に関連するものもあるが、大多数は“抖 S”（ド S）“BL”（BL）“工口”（エロ）などのようなサブカルチャー関連の語彙である。これらは10～30代の若年層に集中的に受容され、社会全体には普及していない状態にある。

3.3 2015年の定着度調査との相違点

以下では、今回の調査結果を2015年に行った第1回の定着度調査の結果と比較し、両調査の相違、そしてその違いの原因を考察する。

(1)平均定着度の低さ

2015年の調査においては、調査語の35語の平均定着度は2.40であり、今回の平均定着度より0.49高く、全体的には「認知」から「使用」という段階に定着していた。つまり、前回の調査語は全体的にはある程度理解されていて、定着に向かっている状態にあると解釈でき、今回より定着の度合いは1つ上の段階にあるという結果になった。

(2)学歴の影響が見られなかった

前回の調査では、回答者の属性については、地域差、年齢差、学歴差、職業差³が見られた。今回の調査においても、地域と年齢については同じ傾向が見られた。一方、学歴差に関しては、前回は学歴が上がるにつれ、平均定着度も高くなる傾向にあったが、統計検定の結果からは今回は学歴差は検出できず、各学歴グループ間にも有意な結果は見られなかった。

(3)年齢の影響力の向上

³ 今回の調査は前回と同様、職業は回答者に自由記入してもらったが、回答された職業はバラバラで、職業別の集団に分けるのが難しく、また分けたとしても等分散性が保証できないため、今回の分析から省くことにした。

前回の調査においては、5つの属性のうち、地域 ($\chi^2=20.653$, $df=1$, $p<.001$) の影響が年齢 ($\chi^2=10.618$, $df=3$, $p<.05$), 学歴 ($\chi^2=10.286$, $df=6$, $p<.05$), 職業 ($\chi^2=11.981$, $df=1$, $p<.10$) を超えて一番強かったのに対して、今回は、年齢 ($\chi^2=100.989$, $df=4$, $p<.001$) の影響力が強く、地域 ($\chi^2=99.536$, $df=2$, $p<.001$) とほぼ同じ程度であった。

まず平均定着度の低さであるが、これは今回の調査語が新しいものが多いことから生じたと考えられる。『日源新詞研究』(2011) の語彙集をもとに調査語を抽出した前回の調査とは異なり、今回の調査語は、筆者が新語辞書、日本語由来の外来語そしてインターネットなど各種のメディアから集めたもので、輸入されてからの時間はあまり経過していないものが多い。輸入されてからの期間の長さと平均定着度の関係性を見出すために、1978年から2017年までの40年間を10年ごとに区切り、各期間に輸入された語数とその平均定着度を算出した。その結果、1978年以後の日源新詞は1988～1997年をピークに、輸入されてからの期間が短くなると平均定着度が低くなる傾向が見られた。外来語の定着の度合いに影響する要因は、(非)専門性など語の使用域や使用頻度など数多く存在しているが、輸入後の期間の長さも平均定着度に影響する要因の一つと考えられる。

次に学歴差が見られなかった理由は、定着度の低さと同じく調査語の輸入後の期間が短いこと、そして等分散性が保たれていないことによると考えられる。2018年の定着度調査の語彙は前回の調査より新しいため、学歴を問わず各グループの定着度が低い。今回の調査語の大多数は、特定の人々に使用されているだけで社会全体にはまだ十分に広がっていないため、学歴という変数ではグループ間に差を検出することが難しかったと考えられる。また、学歴の各グループ間には年齢そして地域の点では偏りがあった。このため、学歴の各グループ間では等分散性が保証できず、学歴属性の分析結果に影響を与えたと考えられる。今回の調査において、点数が一番高いグループは「中学校/それ以下」であること、「大学/短大」の点数が一番低いことも、年齢差そして地域差の影響を受けた結果と考えらえる。なぜなら、「中学校/それ以下」の回答者が、定着度が高い2都市に集中して分布しているので、平均定着度がより高くなり、「大学/短大」グループには、「20代」の回答者だけでなく、「40代」と「50代およびそれ以上」の受容度が低い回答者も含まれているため点数がより低くなつたと解釈できる。

最後は年齢の影響力の強さについてである。その原因是、調査語の輸入の期間が短いこと以外に、調査語には、サブカルチャー関係の語彙が数多く存在していることも年齢差を拡大させた理由だと考えられる。2015年の35語の調査語のうちサブカルチャー関係のものは5つあるのに対して、今回の調査では22語と調査語(45語)の約半分を占めている。これらの語彙は10代～30代の人びとに集中的に受容されているため(張, 2018), 10代～30代の回答者と40代以上の回答者の間の受容度の差が前回より大きくなつたと考えられる。

4.まとめ

本発表は2015年の日源新詞に関する定着度調査に続く2回目の調査に基づいた。調査語としての日源新詞の定着の様子を言語使用者の社会的属性との関わりから確認し、受容されやすい/受容されにくい語の性質などをとらえた。さらに、第1回目の調査結果と比較し、両調査の相違、またその違いが起こった原因に着目して分析した。

今後は、日源新詞を引き続き収集し、新しい語彙の受容の進行を追うなどして、中国語における日源新詞の受容過程を明らかにしたい。

参考文献

- 譙燕・徐一平・施建军編(2011). 日源新詞研究 学苑出版社
張曉娜(2018). 中国語における日源新詞の受容一定着度調査を中心として— 地域政策科学研究, 15, 73-96
中国社会科学院语言研究所词典编辑室編 (2016). 现代汉语词典 商务印书馆, 第7版
中国国家国务院 (2014). 国务院关于调整城市规模划分标准的通知, 国发 51 号